

えべつ 市議会だより

令和3年11月1日発行

No.147

発行 江別市議会

江別市高砂町6番地

電話(011)381-1051

編集 議会広報広聴委員会

印刷 江別印刷業協同組合

えべつ観光特使 えべつまちけんキッズ応援隊が江別市議会に来ました



えべつ観光特使を務める、えべつまちけんキッズ応援隊、隊長の高橋秀輔さん(写真右から2人目)と副隊長の中橋琴美さん(同3人目)が江別市議会に来て、宮本忠明議長(写真右端)と島田泰美副議長(写真左端)がインタビューを受けました。

主な内容

- ◇ 特集 えべつまちけんキッズ応援隊の議会探検 2~3
- ◇ 令和3年第3回定例会の概要 4~5
- ◇ 一般質問 6~11
- ◇ 委員会のページ 12

次期定例会の開催予定

- 第4回定例会
11月25日~12月9日
 - 各委員会
11月26日、
11月29日~12月1日
 - 一般質問
12月3日、6日、7日
- ※日程は予定です。
詳しくは議会事務局まで
お問い合わせください。

議会ホームページ <http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/site/gikai/>

ホームページでは、議案等に対する各議員の賛否の状況や会議録(本会議・各委員会)など、議会の情報が御覧になれます。

また、江別市議会フェイスブックでも、議会の最新情報を発信しておりますので、こちらもぜひ御覧ください。



江別市議会
ホームページ

障がいのある方のための、点字とCDによる「えべつ市議会だより」もあります。

[詳細](#) 障がい福祉課障がい福祉係 ☎ (011)381-1031

巻頭特集

えべつまちけんキッズ応援隊の議会探検

えべつ観光特使を務める、えべつまちけんキッズ応援隊の2人が、江別市議会を探検にきました。今回はその様子をご紹介します。



高橋さん 議会は何をしているですか？

議長 議会では、市の仕事を進めるのに必要な予算やルールなどが適切かチェックしています。

また、皆さんのお意見などを、市の仕事に反映させていく大切な役割を担っています。

中橋さん 市のいろいろなことをどう決めているのですか？

議長 それぞれの議題について話し合った後、多数決で決定します。現在、25名の議員がありますが、議長は決定に加わらず、24名の議員で決定します。

中橋さん 12名で同数のときはどうするのですか？

議長 同数のときは、議長が決定することになります。議長はとても責任が重たい仕事だと感じています。

高橋さん 議会を見ることはできますか。

議長 はい、見ることができます。ぜひ、来てください。未来をつくる皆さんにもっと議会を知りたいです。

えべつまちけんキッズ応援隊とは？

えべつまちけんキッズ応援隊は、江別まち検定の最年少合格者である、隊長の高橋秀輔さんと、江別まち検定の小学生合格者であり、副隊長を務める中橋琴美さんの2人で活動しています。

2人は、江別の魅力発信のため、令和3年2月にえべつ観光特使に就任し、活動しています。おおむね毎月に1度、江別市内の歴史的な施設や公園などに取材に行き、PR記事を書いています。記事は、江別まち検定の公式フェイスブックに掲載しています。最近では、江別小学校跡地近くにある、火薬庫の記事が人気を集めています。

- ・江別まち検定…NPO法人えべつ協働ねっとわーくが主催する江別のご当地検定です。



インタビューの様子は、「江別まち検定」のフェイスブックにも掲載されています！



子どもたちの意見をまちづくりに



高橋 秀輔さん

ぼくが江別のまちで魅力を感じる場所は、四季の道です。春夏秋冬の四季をテーマにした長い道に沿っている公園です。春ゾーンから歩くと距離がありますが、最後の冬のゾーンには遊具などがあって、とても楽しい公園です。



島田 泰美 副議長



中橋 琴美さん

私たちの家の近くの公園も、リニューアルをしました。リニューアルのときには、どんな公園にしてほしいか学校でアンケートを取ってくれて、いくつかの遊具から、好きな遊具を選ばせてくれました。希望を聞いてくれて、うれしかったです。ですが、アンケートではなくて、公園を造る最初の部分から、子どもたちの意見を聞いてくれるようになるともっとうれしいです。



宮本 忠明 議長



中橋 琴美さん

いま、いろいろな場面で、地域の活性化のためのアイディアを募っていますが、どうしても大人の意見が多くなってしまうことがあります。そこに、子どもたちの自由な発想が加わるとよいですね。



新規隊員も
募集中です

ぜひ、みなさんも江別まち検定
にチャレンジしてください！

江別市議会の本会議場を 見学することができます



江別市議会では、小・中学校の見学を受け付けています。令和3年度は対雁小学校の6年生が社会見学に来てくれています。

日程等の御相談については、江別市議会事務局 (TEL 011-381-1051)へお問い合わせください。
※新型コロナウィルス感染症の感染状況によっては、見学をお断りさせていただくことがあります。

令和3年第3回例会

第3回定例会は9月1日から9月28日まで28日間の会期で開かれました。個人情報保護条例の一部改正などの議案4件、水道・下水道・病院の各事業会計決算の認定3件、意見書案4件、陳情1件、報告9件を議了したほか、一般会計・各特別会計の決算の認定5件については閉会中の継続審査となりました。

主な議案と各事業会計の決算審査の内容についてお知らせします。

議決結果・賛否の状況については、江別市議会ホームページで公開しております。



条 例

予 算・決 算

◎個人情報保護条例の一部改正

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正により、特定個人情報に係る情報提供ネットワークシステムの設置及び管理に関する事項の所掌が、総務大臣から内閣総理大臣に変更されたことから、必要な改正を行うものであり、本議案は、賛成多数により原案のとおり可決されました。

◎一般会計補正予算

新型コロナウイルス感染症の対策や国等の予算動向による変更のほか、緊急を要するものへの措置などにより、12億3千383万7千円を増額し、予算総額は、498億961万9千円になるもので、本議案は、全員一致により原案のとおり可決されました。

◎介護保険特別会計補正予算

決算に基づく国庫負担金等の精算返還金のほか、決算剰余金を基金に積み立てるため、3億6千563万9千円を増額し、予算総額は、113億5千663万9千円になるもので、本議案は、全員一致により原案のとおり可決されました。

◎令和2年度水道・下水道・病院各事業会計の決算認定

令和2年度の水道・下水道・病院の各事業会計決算は、定例会初日に予算決算常任委員会に付託され、上下水道事業会計の審査では、会期中に審査が行われました。

水道事業会計における資金残高の推移についての質疑に対し、令和2年度は、宅地開発に伴う給水人口の増加のほか、コロナ禍における一人当たりの使用水量の増加などにより給水収益が増加したことに加え、各種経費の節減に取り組んだ結果、資金残高が前年度と比べて増加することとなつたが、老朽化した施設の更新などに伴う支出の増加が見込まれることから、中長期的には、資金残高が減少する傾向にあると認識していると答弁されております。そのほか、給水停止の件数、下水道管の改築更新工事の考え方、集中豪雨への対応などについての質疑が交わされました。

また、病院事業会計の審査では、救急受入れ患者数の増加についての質疑に対し、新型コロナウイルスの感染拡大により、札幌市内の医療機関では病床が逼迫し、救急患者を受け入れることが困難な状況であったことから、当院においては、検査機器を整備するなど、安心して受け入れられる態勢を整えた上で、救急患者の受け入れを積極的に進め、大学医局からの夜間・休日ににおける当直の出張応援を拡充して

[5]

えべつ市議会だより 令和3年11月1日発行

いだいたことなどにより、常勤医の数は変わらない中でも、医師の負担軽減を図りながら救急受入れ患者数を増加させることができたと答弁されております。

さらに、市民に対する情報発信についての質疑では、ホームページや広報えべつなどの様々な手段を活用し、機会を捉えながら市民にどうぞ分かりやすい情報発信に努めており、経営再建の取組に対する市民の理解が得られるよう、引き続き、努力していく必要があると考えていると答弁されております。そのほか、市立病院の経営再建に向けたロードマップなどについての質疑が交わされました。

各事業会計決算は、いずれも賛成多数により認定されました。

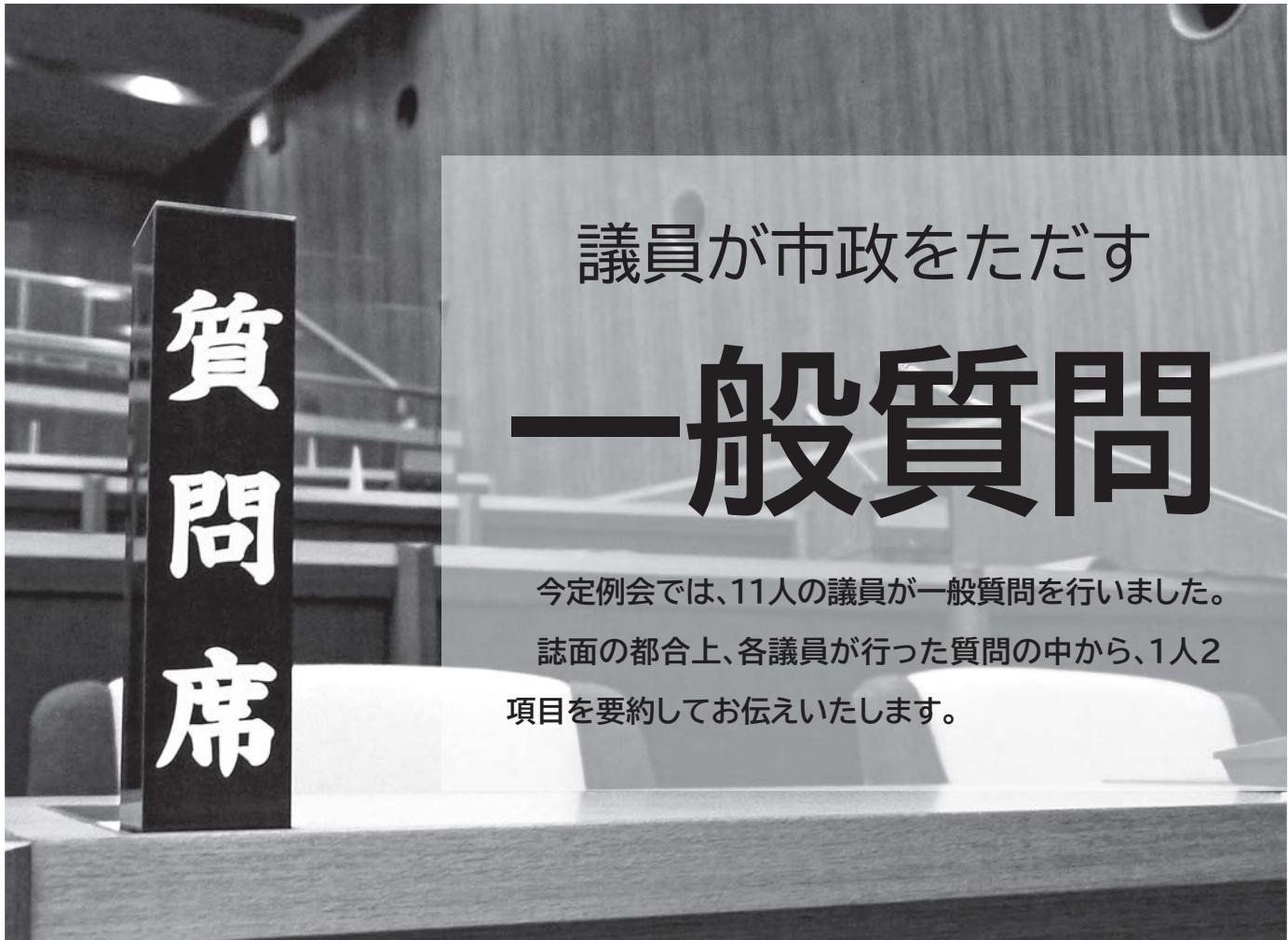
陳情

- 不採択となつた陳情
- ◎道立自然公園野幌森林公園内の江別市道の「歩道」化を求めることについて

代表 フォーラム野幌の森
代表 五十嵐敏文氏

そのほか本定例会に提出された議案

件名	議決結果
令和2年度一般会計の決算認定	閉会中継続審査
令和2年度国民健康保険特別会計の決算認定	閉会中継続審査
令和2年度後期高齢者医療特別会計の決算認定	閉会中継続審査
令和2年度介護保険特別会計の決算認定	閉会中継続審査
令和2年度基本財産基金運用特別会計の決算認定	閉会中継続審査
国土強靭化に資する社会资本整備等を求める意見書	原案可決(全員一致)
出産育児一時金の増額を求める意見書	原案可決(全員一致)
コロナ禍における緊急的な大学等授業料への財政支援を求める意見書	原案可決(全員一致)
加齢性難聴者への補聴器購入のための国の助成を求める意見書	原案可決(全員一致)
専決処分(物損事故に係る損害賠償額の決定)	報告済
水道事業会計資金不足比率の報告	報告済
下水道事業会計資金不足比率の報告	報告済
病院事業会計資金不足比率の報告	報告済
健全化判断比率の報告	報告済



▼夫婦の別居・離婚後における子連れ去りの実態把握

質問 江別市での連れ去り案件の児童に関する相談事例の有無と、相談内容及び対処方法は。

答弁 一般的に、連れ去りとは、配偶者のどちらかが相手の合意なく、子供を連れて勝手に別居してしまうことを指す。

当市において、連れ去りの当事者となつた児童に関する相談事例はないが、そのような相談があつた際には、児童の利益を最優先とする考え方の下、子ども家庭支援員やスクールソーシャルワーカーが、児童や保護者と面談し、個々の事例に応じて、関係機関との連携を図るほか、よりよい解決策について助言できる体制を整えている。



芳賀 理己 議員

▼児童の権利を守るために支

質問 児童を擁護するための市の支援体制は。

答弁 平成元年の国連総会において採択された子どもの権利条約を日本は平成6年に批准している。

市では、これまで、条約の理念を施策に反映し、公園造りや中学生サミット、スマートフォンの利用に関するルールづくりなどに、子供たちの意見を取り入れてきた。また、児童福祉法に基づき、児童を虐待から守るため、児童相談所や、学校、保育所、警察、医療機関など様々な関係機関とネットワークを構築し、日頃から連携する体制を整えている。

令和2年3月に策定した、第2期江別市子ども・子育て支援事業計画においても、基本施策の一つに子どもの育ちの保障を掲げ、子どもの権利条約の普及や子どもの意見が社会に反映される環境づくりを促進することとしている。



**民主・市民の会
稻守 耕司 議員**



**日本共産党議員団
吉本 和子 議員**

▼家庭内における新型コロナウイルス感染者への対応

質問

家庭内で新型コロナウイルスへの感染が確認され、育児が困難になった際に、必要な支援につなげる必要があると考えるがいかが。

答弁

市では、市民や関係団体に対し、感染対策の徹底と、家庭内にウイルスを持ち込まないことの重要性について、市ホームページやSNS、タウン誌へのチラシの折り込み、広報車などにより、繰り返し呼びかけている。

親が感染し育児が困難な状況になつた場合などにおいては、感染者の個々の生活実態に応じて、保健所と連携し、市として、パルスオキシメーターの貸出しや、食料の確保、子供の養育環境の調整などの支援を行つている。

市としては、保健所と連携しながら、感染防止対策を進めるとともに、様々な事情に応じ、感染者やその家族の支援に努めたい。

▼ワクチン接種の予約受付体制

質問

ワクチン接種予約において、インターネットが苦手などの理由による、電話予約への対応の現状は。

答弁

市では、令和3年4月26日に、65歳以上の高齢者を対象として、インターネットと電話による予約受付を開始したが、予約電話がつながらない、予約が終了したとの情報が伝わらない、インターネットが利用できないなど、多くの苦情や御意見をいただいた。こうした経過を踏まえ、6月7日からの第2弾の予約においては、集団接種会場に青年センターを増設したほか、市内6病院における予約枠の追加、市内クリニックにおける接種開始により接種機会を確保した上で、コールセンターの電話回線を増設し、5歳毎の年齢区分による予約受付を行つたことにより、4月における申込みの混乱は解消できたと認識している。

なお、インターネットに不慣れな高齢者から相談があつた場合には、代入力による予約受付を行つている。

このほか、外国人技能実習生のワクチン接種について質問がありました。

▼学校における生理の貧困への対応

質問

江別市内の小・中学校のトイレに生理用品を常備することについて、どう考えるか。

答弁

児童生徒への保健教育や健康相談の機会を確保するためには、保健室に生理用品を常備し、養護教諭から直接渡すことが有効であるとを考えている。

学校のトイレに生理用品を常備することについては、児童生徒が必要な時に利用することができる一方、養護教諭が、児童生徒との面談を通じて、心身の健康状態や、家庭環境などの課題を把握する機会を失うことも懸念される。

このため、市教委としては、児童生徒が相談しやすい環境づくりに努め、生理用品は保健室に常備して、引き続き、養護教諭から直接渡していくことを考えていている。

なお、インターネットに不慣れな高齢者から相談があつた場合には、代入力による予約受付を行つて

このほか、外人技能実習生のワクチン接種について質問がありました。

▼コロナ禍における大学生等への支援

質問

民間団体等が実施している食料支援事業へ市が公的支援を行い、困窮する学生等への事業を支えるべきでは。

答弁

市内では、民間団体や一部の大学が、大学生等に対し食料等の支援を行つて、生活困窮している大学生に、食料の支援を行うことは、就学継続を支援するための一つの方策として有効であると考えている。市では、これまで協力要請があつた際には、食料支援事業に賛同する企業の紹介や、防災備蓄用の食料の提供を行つてきた。

賛同企業については、企業の現況などもあるので、全てを紹介できるわけではないが、可能な限り協力していきたいと考えている。一方、市の防災備蓄用の食料は、防災訓練等を通じて提供しており、対応可能なものは、適宜、協力していきたいと考えている。いずれにしても、市は学生の生活実態を把握した上で、必要に応じて対応を検討していく。

このほか、子供の人権の視点で校則を見直すことについて質問がありました。

しかしながら、未来に向かって経営再建の方向性を共有するという市民説明会の本来の趣旨について、多くの参加者の御理解をいただいた上で、誠に申し訳なく思つてゐる。市は、今回の市民説明会の結果を踏まえ、今後、経営再建の方向性をテーマとした、市民説明の場を設ける際には、多くの市民の皆様が、議論に参加できるよう、あらかじめ開催の意義や目的を十分にお伝えする手法などについて、経営評価委員会や市立病院とも相談しながら、十分に検討していきたい。

質問 経営再建計画の市民説明会の評価と今後の開催について伺う。

答弁 市民説明会は、新型コロナウイルス感染症対策を行う中での開催となり、多くの市民の方々に参加いただきましたが、難しい状況であったものの、参加していただいた市民の皆様からは、短い時間だったが、たくさんの方々の貴重な御意見や、厳しい御指摘をいただけたものと考えてい



えべつ地域創生の会 鈴木 誠 議員

質問 江別市アイヌ施策推進地域
計画策定の見通しは。

答弁 アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律に基づき、道では北海道におけるアイヌ施策を推進するための方針を定めた。この方針では、アイヌ施策の推進に当たり、課題やニーズなど実態の把握に努め、アイヌの人たちの意見を十分踏まえるように定められていることから、4回にわたり江別アイヌ協会と協議を行つたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、会員同士で意見交換ができず、提案内容をまとめ切れていないと伺つている。また、江別に縁のある樺太アイヌ協会とは、1回の協議の場を持つことができ、苦難の歴史などをお聞きし、対雁の慰靈碑周辺の整備についてお願いしたいとのことであった。各協会からの御意見を引き続き丁寧に伺いながら、できるだけ早く計画の策定を目指したい。

質問 多胎妊娠の妊娠健康診査費用の補助についての見解は。

答弁 市の妊婦健康診査については道と北海道医師会の協定した内容に基づき、道内の産科医療機関等に委託して、妊婦一般健康診査14回、超音波検査6回の助成を行つている。

市では現在、多胎妊娠の場合も、単胎妊娠の方と同様の内容で対応しているが、国においては、令和3年度から、通常14回の妊婦健康診査を超えて、追加で受診する費用を補助する制度が創設されたところである。

多胎妊娠では医学的リスクが高く、単胎妊娠より、多くの妊婦健康診査受診が推奨されており、受診に伴う経済的負担が大きくなることから、市としては、国の新たな制度創設を踏まえ、他市の事例を参考にしながら、補助の実施に向けてその方法や内容について検討している。

市内の中小企業の成長・発展は、地域社会の活性化に不可欠なことと認識しているので、公平性や公正性を担保しつつ、地元企業の受注機会の確保が図られるよう、発注の方針や入札参加資格における本社要件の取扱いなど、他市の状況を調査し、江別市の実情にあつた手法について、研究していきたい。

質問 市内事業者が受注できる環境の整備として、入札の参加要件の見直し等も含めた検討を行う必要があると考えるがいかがか。

答弁 市では、入札の公平性、透明性及び競争性を高め、工事品質を確保するとともに、市内事業者の受注機会の確保と拡大を図るために、国の法改正や入札制度改革の通知等に基づき、様々な入札契約制度の見直しを実施してきた。入札参加要件に関して、市では、工事の規模や種類に応じて、入札参加資格要件を設定し、公募等を行ってきて

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses. He is wearing a dark suit jacket over a white shirt and a striped tie. A small circular pin or emblem is visible on his left lapel. He is looking towards the left of the frame with a neutral expression.

公明党
徳田 哲 議員

このほか、今
がありました

後



猪股 美香 議員
えべつ地域創生の会



干場 芳子 議員
民主・市民の会

▼市民の就業状況

質問 ベッドタウンとして、合計特殊出生率が低い傾向を踏まえ、市民の就業状況をしっかりと捉え、施策に反映させる必要があるのでは。

答弁 市では、これまで江別まちなか仕事プラザを設置し、企業の雇用を確保することともに、女性などの就労機会の増加を図ってきたほか、保育の定員拡大や保育料の独自軽減、放課後児童クラブの拡充などにより仕事と子育ての両立支援を進めてきた。

また、今年度は、子育てする保護者への相談体制の充実や、子育ての魅力を高めるための取組など、新たな少子化対策も検討している。こうした取組により、市民が安心して子供を産み育てられる環境の充実に努めるとともに、転出することなく、住み続けてもらえるよう、取り組んでいきたいと考えている。いずれにしても、市民の就業状況や、就業環境を意識しながら、引き続き、第7次江別市総合計画の策定作業を進めていく。

▼コロナ禍における学校運営

質問 学級閉鎖・休校等により、学習に不安を抱える児童生徒へのフォローについての考えは。

答弁 学級閉鎖等により休業期間が長期となる場合には、プリント配付や電話による指導を行い、再開後には、児童生徒の理解度に応じて、担任教諭が個別に対応するほか、学習サポート教員や学習指導員の配置により児童生徒の学習に対する不安を軽減させる体制をとっている。

また、GIGAスクール構想の本格運用に併せ、オンラインによる個別の健康観察や学習支援の取組を進めている。さらに、文科省では、学習支援コンテンツポータルサイトの開設のほか、新たな自習型の学習支援ツールを開発していることから、導入について、校長会と相談しながら、検討していきたいと考えている。

市教委としては、学級閉鎖等の影響があつても、学習の遅れによる不安が生じないよう、様々な方策を組み合わせて、学習支援を充実させていく。

▼協働への理解を促進するための取組

質問 協働のまちづくり活動支援事業のあり方を改めて検証し、取り組むべきと考えるがいかがか。

答弁 江別市民活動センター・あるいは運営しているNPO法人えべつ協働ねっとわーくは、市民活動団体の設立や運営などに対する、相談・支援を行う市民活動の中間支援組織としての役割を担っている。

市はこれまで、小・中学生対象の早朝ミニ講座や市民活動団体の情報誌の発行など、市民協働に関連する各種事業の委託等を行つてきだが、業務内容や量について実施可能な範囲となるよう、えべつ協働ねつとわーくと協議しながら進めてきた。

また、市民活動団体が地域の課題解決や活性化のために取り組む事業を支援する協働のまちづくり活動支援事業は、これまでも必要に応じて実態に即した補助要件等の見直しを行つてきた。今後も、今年度予定している市民活動団体へのアンケート調査の意見等も踏まえながら、事業の在り方について検討していく。

▼シックスクール対策

質問 江別市シックスクール対策マニュアルに香害を盛り込むべきでは。ニユアルにて香害を盛り込むべきでは。

答弁 市教委では、学校施設内で放置された場合に適切に対応できる体制を確保するため、平成25年度にシックスクール対策マニュアルを作成した。化粧品等の学校外から持ち込まれる香りについて、このマニュアルに基づいて控えていただくよう保護者等へ理解と協力を求めてきていた。また、様々な化学物質の影響に対応できるよう、マニュアルの運用を見直しながら、児童生徒への配慮に努めてきた。

香害をマニュアルに盛り込むことについては、消費者団体と関係省庁の間で香害の対策に向けた検討の動きがあるとの報道もあることから、児童生徒への配慮に努めてきた。香害をマニュアルに盛り込むことにより、必要に応じて、見直しを行った

このほか、自転車の安全対策について、安心して子育てができるための支援について質問がありました。

▼市民の就業状況

ベッドタウンとして、合計特殊出生率が低い傾向を踏まえ、市民の就業状況をしっかりと捉え、施策に反映させる必要があるのでは。

市では、これまで江別まちなか仕事プラザを設置し、企業の雇用を確保することともに、女性などの就労機会の増加を図ってきたほか、保育の定員拡大や保育料の独自軽減、放課後児童クラブの拡充などにより仕事と子育ての両立支援を進めている。

また、今年度は、子育てする保護者への相談体制の充実や、子育ての魅力を高めるための取組など、新たな少子化対策も検討している。こうした取組により、市民が安心して子供を産み育てられる環境の充実に努めるとともに、転出することなく、住み続けてもらえるよう、取り組んでいきたいと考えている。いずれにしても、市民の就業状況や、就業環境を意識しながら、引き続き、第7次江別市総合計画の策定作業を進めていく。

▼コロナ禍における学校運営

学級閉鎖・休校等により、学習に不安を抱える児童生徒へのフォローについての考えは。

学級閉鎖等により休業期間が長期となる場合には、プリント配付や電話による指導を行い、再開後には、児童生徒の理解度に応じて、担任教諭が個別に対応するほか、学習サポート教員や学習指導員の配置により児童生徒の学習に対する不安を軽減させる体制をとっている。

また、GIGAスクール構想の本格運用に併せ、オンラインによる個別の健康観察や学習支援の取組を進めている。さらに、文科省では、学習支援コンテンツポータルサイトの開設のほか、新たな自習型の学習支援ツールを開発していることから、導入について、校長会と相談しながら、検討していきたいと考えている。

市教委としては、学級閉鎖等の影響があつても、学習の遅れによる不安が生じないよう、様々な方策を組み合わせて、学習支援を充実させていく。

▼協働への理解を促進するための取組

協働のまちづくり活動支援事業のあり方を改めて検証し、取り組むべきと考えるがいかがか。

江別市民活動センター・あるいは運営しているNPO法人えべつ協働ねっとわーくは、市民活動団体の設立や運営などに対する、相談・支援を行う市民活動の中間支援組織としての役割を担っている。

市はこれまで、小・中学生対象の早朝ミニ講座や市民活動団体の情報誌の発行など、市民協働に関連する各種事業の委託等を行つてきだが、業務内容や量について実施可能な範囲となるよう、えべつ協働ねつとわーくと協議しながら進めてきた。

また、市民活動団体が地域の課題解決や活性化のために取り組む事業を支援する協働のまちづくり活動支援事業は、これまでも必要に応じて実態に即した補助要件等の見直しを行つてきた。今後も、今年度予定している市民活動団体へのアンケート調査の意見等も踏まえながら、事業の在り方について検討していく。

▼シックスクール対策

江別市シックスクール対策マニュアルにて香害を盛り込むべきでは。

市教委では、学校施設内で放置された場合に適切に対応できる体制を確保するため、平成25年度にシックスクール対策マニュアルを作成した。化粧品等の学校外から持ち込まれる香りについて、このマニュアルに基づいて控えていただくよう保護者等へ理解と協力を求めてきていた。また、様々な化学物質の影響に対応できるよう、マニュアルの運用を見直しながら、児童生徒への配慮に努めてきた。

香害をマニュアルに盛り込むことについては、消費者団体と関係省庁の間で香害の対策に向けた検討の動きがあるとの報道もあることから、児童生徒への配慮に努めてきた。香害をマニュアルに盛り込むことにより、必要に応じて、見直しを行った

▼市民の就業状況

ベッドタウンとして、合計特殊出生率が低い傾向を踏まえ、市民の就業状況をしっかりと捉え、施策に反映させる必要があるのでは。

市では、これまで江別まちなか仕事プラザを設置し、企業の雇用を確保することともに、女性などの就労機会の増加を図ってきたほか、保育の定員拡大や保育料の独自軽減、放課後児童クラブの拡充などにより仕事と子育ての両立支援を進めている。

また、今年度は、子育てする保護者への相談体制の充実や、子育ての魅力を高めるための取組など、新たな少子化対策も検討している。こうした取組により、市民が安心して子供を産み育てられる環境の充実に努めるとともに、転出することなく、住み続けてもらえるよう、取り組んでいきたいと考えている。いずれにしても、市民の就業状況や、就業環境を意識しながら、引き続き、第7次江別市総合計画の策定作業を進めていく。



▼学校施設のバリアフリー化

質問

学校施設のバリアフリー化の推進についてどのように考えるか。

答弁

市教委では、国の補助金等を活用しながら、多目的トイレの設置などを進めており、引き続き財源の確保に努めながら、学校のバリアフリー化を着実に進めていく。さらに、令和2年5月のバリアフリー法改正では、学校の新築や改築時には、エレベーターの設置を含む学校施設のバリアフリー化が義務化されたことから、今後、江別市学校施設長寿命化計画に基づく大規模改修に合わせて、法律の要件を満たしたバリアフリー設備を整備していく。現状では、エレベーターの設置が一部の学校にとどまることから、身体に障がいのある児童生徒の入学に当たっては、階段昇降機の設置など、学校と相談しながら、安心して学べる環境を確保していく。

江別市学校施設長寿命化計画に基づく大規模改修については、児童生徒の入学状況なども参考に、優先順位を総合的に検討し、バリア化を進めていく。

齊藤 佐知子 議員

▼自転車条例の制定

質問

自転車保険加入を義務付けする条例の制定について市の考えは。

答弁

市では、自転車保険の加入促進に向けて、ホームページや交通安全教室等での周知啓発のほか、自転車通学を許可している市内小・中学校に対し、各校の加入義務化の状況をお知らせするとともに自転車事故や保険に関するチラシを配布するなど加入促進を図っている。自転車保険の加入を義務付ける条例の制定については、これまで北海道自転車条例や第2期北海道自転車利活用推進計画に基づき、保険の加入促進の取組を行ってきており、さらに、現在、パブリックコメント実施中の第11次江別市交通安全計画案においては、経営評価委員会としての考え方方は座長である委員長が、経営再建の意見、質問には、市長もしくは病院長が答える予定であったが、結果として、質疑が幅広い内容にわたり、座長である委員長が、開催趣旨の説明に時間を長く費やすこととなり、市立病院の経営再建や、その進捗状況の論議に至らず、時間の対応について検討していく。

このほか、がん検診について質問がありました。



▼市立病院の市民説明会実施後の評価

質問

市立病院の市民説明会実施後の評価は。

答弁

市民説明会は、市立病院が地域医療の中核を担う医療機関として、地域医療を守りつつ、経営再建をどのように進めていくのかということについて、市民と共有する場を設けるため開催し、冒頭、経営再建の方針性の説明を行った後、参加者との意見交換を行い、貴重な御意見や、厳しい御指摘をいたいただいた。

意見交換における役割分担については、経営評価委員会としての考え方方は座長である委員長が、経営再建の意見、質問には、市長もしくは病院長が答える予定であったが、結果として、質疑が幅広い内容にわたり、座長である委員長が、開催趣旨の説明に時間を長く費やすこととなり、市立病院の経営再建や、その進捗状況の論議に至らず、時間の対応について検討していく。

江別市学校施設長寿命化計画に基づく大規模改修については、児童生徒の入学状況なども参考に、優先順位を総合的に検討し、バリア化を進めていく。

佐々木 聖子 議員

▼今後の市民説明会の在り方

質問

今後の市民説明会の在り方についての考え方と、今後の開催の有無を伺う。

答弁

市立病院の経営再建については、対話型による市民説明を充実させることも重要と考えているが、対話型の市民説明を行う際には、開催の意義や目的を十分に伝える点に配慮する必要があると考えている。

今後においても、これらの条例や計画に基づき、自転車の安全な利活用に向けて取組を進め、道内における推進状況を勘案しながら、自転車保険に関する条例制定への対応について検討していく。

また、新たな取組として、経営再建に関する御意見をいたぐため蔓延する状況下においては、新たな形での意見交換の手法を検討する必要があるものと考えている。

また、新たな取組として、経営再建に関する御意見をいたぐための専用の窓口を新設し、御意見に對して、個別に回答するとともに、提言について経営評価委員会に報告し、速やかに経営再建に反映させるなど、その取組を隨時公表していただきたいと考えている。今後の開催時期、説明会の進め方にについては、経営評価委員会や市立病院とも相談しながら、対応していきたい。



公明党
奥野 妙子 議員



民主・市民の会
諏訪部 容子 議員

市の避難行動要支援者名簿登録者は1千42名で、このうち、危険な地域にお住まいの方は、200名程度と見込んでいるが、まずは、優先度の高い対象者の考え方の検討のため、地域にお住まいの方は、200名程度と見込んでいた。市の避難行動要支援者名簿登録者は、市町村の努力義務とした。この取組指針では、まずはハザードマップ上で危険な地域にお住まいの方で、優先度の高い避難行動要支援者を対象に、5年程度で作成することとされている。

NPO等への委託事業が対象となることから、社会福祉協議会やNPO法人えべつ協働ねつとわーくなどから情報収集を行ってきたが、現段階ではそうした活動を行うNPO等は市内で確認されていない。今後は、所設置協定の経験を生かし、国とのモニタリング事業の情報収集とともに、効果的な取組について検討を進めていく。

質問 どのように個別避難計画の策定を進めようとしているか。
答弁 国は、災害対策基本法の改正において、避難行動要支援者について、災害時の避難先や避難支援者などを記載した個別避難計画の作成を市町村の努力義務とした。この取組指針では、まずはハザードマップ上で危険な地域にお住まいの方で、優先度の高い避難行動要支援者を対象に、5年程度で作成することとされている。

質問 地域女性活躍推進交付金を活用し、コロナ禍にあっても、誰も置き去りにしない、きめ細やかな支援に取り組むべきでは。
答弁 国は、地域女性活躍推進交付金の新たなメニューとして、つながりサポート型を追加し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている女性への支援として、不安を抱える女性が社会との絆つながりを回復できるよう、相談・支援や居場所づくりなどをNPO等の知識や能力を活用し、委託する事業を交付対象とした。取組の例として、アウトリーチ型の相談、居場所の提供、人材の育成が挙げられ、生理用品等の提供も可能とされている。

質問 GIGAスクール構想において、どのように学力の定着と向上を図ろうとしているのか。
答弁 江別市学校教育基本計画に基づき、電子黒板を導入するなど、ICT環境の充実を進めてきた。市教委としては、これまで積み重ねてきた教育活動に、ICTの活用を加えることで、児童一人一人の習熟度に応じた個別学習や子供たち同士が教え合い学び合う協働学習により、これまで以上に分かりやすく、深い学びの実現を目指していくと考えている。

質問 タブレット端末を活用した児童の健康状態や精神不調を観察するシステムを導入すべきでは。
答弁 文科省は、GIGAスクール構想で整備したタブレット端末を活用することについて示唆している。市教委としては、児童生徒の心身の状況把握や教育相談等に活用することについて示唆するため、アンケート用紙による調査を実施してきた。

質問 GIGAスクール構想において、どのように学力の定着と向上を図ろうとしているのか。
答弁 江別市学校教育基本計画に基づき、電子黒板を導入するなど、ICT環境の充実を進めてきた。市教委としては、これまで積み重ねてきた教育活動に、ICTの活用を加えることで、児童一人一人の習熟度に応じた個別学習や子供たち同士が教え合い学び合う協働学習により、これまで以上に分かりやすく、深い学びの実現を目指していくと考えている。

質問 タブレット端末を活用した児童の健康状態や精神不調を観察するシステムの導入については、これまで行ってきたアンケートをタブレット端末を活用して行うこととし、今後、具体的な手法を検討したいと考えている。アンケートの時期や項目などは、北海道臨床心理士会等の関係機関に相談しながら、内容の充実を図り、心の不調を抱える児童生徒の早期発見・早期対応につなげていきたい。



▶ 議会運営委員会

議会運営に関する検討課題について協議が進められました。江別市議会における業務継続計画(BCP)と一般質問における一問一答方式の運用については、検討部会を設置し協議を行うこととなりました。江別市議会基本条例の評価・検証については、ワーキンググループを設置し、評価・検証を進めていく予定です。

また、江別市議会ICT化推進基本計画の推進については、タブレット端末導入に係る経費を令和4年度議会費として予算要求することについて、合意を得られなかつたため、見送ることとなりました。

▶ 総務文教常任委員会

「道立自然公園野幌森林公園内の江別市道の『歩道』化を求めることがあります」の陳情が当委員会に付託されました。陳情者に意見陳述をいただいた後に、歩道化を求めている市道の認定の経緯や、野幌基線道路における交通量調査などの資料に基づいて、関連部局に質疑などを行い、審査し、多数で不採択とすべきものと決しました。

また、江別第三中学校における灯油漏れ事故、市内公立小中学校における新型コロナウイルス感染者の発生に伴う休業措置などの報告を受け、関連した質疑を行いました。

▶ 生活福祉常任委員会

当委員会では、健康福祉部から、8月17日現在の新型コロナウイルスワクチン接種状況について、江別市全体(12歳以上)の1回目の接種率は約50%、2回目の接種率は約35%で、このうち、65歳以上の2回目の接種率は、

約80%となっており、11月には希望する方への接種を終了する予定との報告を受けました。

生活環境部からは、環境クリーンセンター延命化工事の概要について、令和18年度末まで延命化する方針であり、令和4年度からの工事の発注に向け準備作業が進められていることなどの報告を受けました。当委員会としては、今後の動向を注視してまいります。

▶ 経済建設常任委員会

令和3年7月15日開催の委員会では、水道部から大規模工事の概要について、経済部と建設部から指定管理施設の更新等についてのほか、弥生団地H棟駐車場の看板倒壊による物損事故について、8月23日開催の委員会では、経済部から北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の推進状況、江別観光協会の法人化、プレミアム付商品券発行事業、感染症防止対策協力支援金などについて、それぞれ報告を受け、質疑を行いました。

▶ 議会広報広聴委員会

当委員会では、議会だより第147号の特集ページ作成の進捗状況についての報告を受けたほか、令和3年度「市民と議会の集い」開催について協議を行い、現在も新型コロナウイルス感染症の終息が見えないことから、これまで開催してきたような、集会型の「市民と議会の集い」の開催は行わないことを確認しました。

今後、議会広報広聴委員会としては、代替案を含め、市民と議会における広報・広聴の在り方の協議を進めてまいります。